

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成18年1月12日(2006.1.12)

【公表番号】特表2005-504522(P2005-504522A)

【公表日】平成17年2月17日(2005.2.17)

【年通号数】公開・登録公報2005-007

【出願番号】特願2003-507063(P2003-507063)

【国際特許分類】

**C 1 2 N 15/09 (2006.01)**

**A 6 1 K 9/10 (2006.01)**

**A 6 1 K 31/7115 (2006.01)**

**A 6 1 K 31/712 (2006.01)**

**A 6 1 K 31/7125 (2006.01)**

**A 6 1 K 48/00 (2006.01)**

**A 6 1 P 35/00 (2006.01)**

**A 6 1 P 37/04 (2006.01)**

**A 6 1 P 43/00 (2006.01)**

**C 1 2 N 5/10 (2006.01)**

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 9/10

A 6 1 K 31/7115

A 6 1 K 31/712

A 6 1 K 31/7125

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 37/04

A 6 1 P 43/00 1 1 1

C 1 2 N 5/00 B

【手続補正書】

【提出日】平成16年4月16日(2004.4.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

トランスフォーム増殖因子 受容体IIをコードする核酸分子を標的とする、長さ8～50核酸塩基の化合物であって、前記化合物がトランスフォーム増殖因子 受容体IIをコードする前記核酸分子に特異的にハイブリダイズし、そしてトランスフォーム増殖因子 受容体IIの発現を阻害する、前記化合物。

【請求項2】

アンチセンスオリゴヌクレオチドである、請求項1に記載の化合物。

【請求項3】

アンチセンスオリゴヌクレオチドが、SEQ ID NO: 21、22、27、28、33、34、41、42、44、47、49、50、53、56、57、61、63、65、66、67、68、72、73、74、76、78、80、87、91、93、94、20、23、24、25、29、30、31、99、100、101、102、103、104、105、106、107

、108、109、110、111、112、113、114、115、116、117、118、119、121、122、123、124、125、127、128、130、131、132、133、134、135、136、137、138、139、143、144、145、146、147、149、150、152、153、154、155、156、158、160または161を含む配列を有する、請求項2に記載の化合物。

【請求項4】

アンチセンスオリゴヌクレオチドが少なくとも一つの修飾ヌクレオシド間結合を含む、請求項2に記載の化合物。

【請求項5】

修飾ヌクレオシド間結合がホスホロチオエート結合である、請求項4に記載の化合物。

【請求項6】

アンチセンスオリゴヌクレオチドが少なくとも一つの修飾糖成分を含む、請求項2に記載の化合物。

【請求項7】

修飾糖成分が2'-O-メトキシエチル糖成分である、請求項6に記載の化合物。

【請求項8】

アンチセンスオリゴヌクレオチドが少なくとも一つの修飾核酸塩基を含む、請求項2に記載の化合物。

【請求項9】

修飾核酸塩基が5-メチルシトシンである、請求項8に記載の化合物。

【請求項10】

アンチセンスオリゴヌクレオチドがキメラオリゴヌクレオチドである、請求項2に記載の化合物。

【請求項11】

トランスフォーム増殖因子 受容体IIをコードする核酸分子上の活性部位の少なくとも8-核酸塩基部分と特異的にハイブリダイズする、長さ8～50核酸塩基の化合物。

【請求項12】

請求項1に記載の化合物および薬剂的に許容可能な担体または希釈剤を含む、組成物。

【請求項13】

コロイド分散系をさらに含む、請求項12に記載の組成物。

【請求項14】

化合物がアンチセンスオリゴヌクレオチドである、請求項12に記載の組成物。

【請求項15】

細胞または組織におけるトランスフォーム増殖因子 受容体IIの発現を阻害する方法であって、前記細胞または組織を請求項1に記載の化合物と接触させ、それによりトランスフォーム増殖因子 受容体IIの発現を阻害する、前記方法。

【請求項16】

トランスフォーム増殖因子 受容体IIの発現を阻害することによりトランスフォーム増殖因子 受容体IIに関連する疾患または症状を有する動物を治療するための、治療的または予防的有効量の請求項1に記載の化合物を含む、医薬組成物。

【請求項17】

疾患または症状が過剰増殖性障害である、請求項16に記載の医薬組成物。

【請求項18】

過剰増殖性障害が癌である、請求項17に記載の医薬組成物。

【請求項19】

癌が、肺癌、肝臓癌、骨癌、乳癌、子宮頸癌、結腸癌、胃癌、膵臓癌、食道癌、または造血細胞癌である、請求項18に記載の医薬組成物。

【請求項20】

疾患または症状が免疫系の活性化が関与するものである、請求項16に記載の医薬組成物。